

頁	箇所	正	誤
目次	-	6-4 検査と校正の期間その他 … 772	6-4 検査と校正の期間その他 … 770
目次	-	6-5 保全 … 772	6-5 保全 … 770
目次	-	6-5-1 保全と校正 … 772	6-5 保全 … 770
P.2	上から10行目	1-3 フールプルーフとフェイルセーフ …特に <b>非常識</b> な扱いを…	1-3 フールプルーフとフェイルセーフ …特に <b>非常識でない</b> 扱いを…
P.127	下から6行目	計器目盛 0~100 Sm <sup>3</sup> /h	計器目盛 0~100 Smm <sup>3</sup> /h
P.127	下から3行目	計器目盛 0~100 m <sup>3</sup> /h	計器目盛 0~100 mm <sup>3</sup> /h
P.128	上から4行目	計器目盛 0~100 m <sup>3</sup> /h	計器目盛 0~100 mm <sup>3</sup> /h
P.173	文中	ダンブナの絞り効果は…	ダンブの絞り効果は…
P.196	表中	空気 1.293	空気 1.292
P.207	下から3行目	下記文章に修正 比例制御だけでは偏差が0の場合、ある操作量の値は1点でバランスしている。恒常的な外乱が入ってくると、そのバランスが崩れるので残留偏差(オフセット)が残ってしまう。	下記文章 理屈は簡単である。理想的に偏差=0となると比例制御では操作量=0となり、不安定な状態になってしまう。ある程度の偏差を残すことにより、それに見合った操作量の出力をし、釣り合うことになる。
P.286	表2.8.6	IV-S1 備考欄 0.0005%定格Cv	IV-S1 備考欄 0.005%定格Cv
P.288	上から6行目	バルブのフェイルセーフとは、…	バルブのフェイルセイフとは、…
P.288	下から6行目	フェイルセーフの視点から…	フェール・セーフの視点から…
P.470	上から2行目	その接地抵抗値が100Ω以下にすることが望ましい。	C種接地工事に準じた方法で施工することが望ましい。
P.500	表中 適用範囲	JIS G 3452-2004 配管用炭素鋼鋼管 1…空気などの配管に用いる炭素鋼鋼管に…	JIS G 3452-2004 配管用炭素鋼管 1…空気などの配管に用いる炭素鋼管に…
P.500	表中 主な特徴と用途	JIS G 3454-2007 3…強度レベルで <b>370,410</b> の2種類、	JIS G 3452-2007 3…強度レベルで370,410, <b>480</b> の3種類、
P.500	表中	JIS G 3456-2004 高温配管用炭素鋼鋼管 1…に用いる炭素鋼鋼管について…	JIS G 3456-2004 高温配管用炭素鋼管 1…に用いる炭素鋼管について…
P.502	表したから4段目	<b>SUS 440B</b> 18Cr-0.8C	鋼種 空欄部分
P.512	図 3.8.8	ケーブルラックの支持間隔 <b>2000</b> mm以下	ケーブルラックの支持間隔 <b>200</b> mm以下
P.586	図 4.5.13 直管部最小長さ	各種弁 10D 	各種弁 5D 
P.677	図 4.7.25	配管の支持間隔 <b>2000</b> mm以下(図中2ヶ所)	配管の支持間隔 <b>200</b> mm以下(図中2ヶ所)
P.695	上から1行目	4-8-1 (2)(a)…JIS <b>B</b> 0202(管用平行ねじ)…	4-8-1 (2)(a)…JIS <b>C</b> 0202(管用平行ねじ)…
P.827	表中	耳栓 Ear <b>plug</b>	耳栓 Ear <b>pluge</b>
P.903	下から7行目	(e) ③高さは、 <b>85</b> センチメートル以上とすること。	(e) ③高さは、 <b>75</b> センチメートル以上とすること。